

(報道用資料)

2007年 6 月 15 日

株式会社パスコ

---

合成開口レーダ (SAR) 衛星「TerraSAR-X」、打ち上げ成功  
～6 月 15 日 (金) 11 時 14 分 カザフスタン・バイコヌール宇宙基地より～

<http://www.pasco.co.jp/measure/satellite/terrasarx/tsx/>

---

株式会社パスコ (本社: 東京都目黒区、代表取締役社長: 杉本陽一、資本金: 87 億円、セコムグループ、東証1部、以下パスコ) が日本国内における撮影データの独占販売権と全世界への販売権を取得しているドイツの商用人工衛星「テラサー・エックス (TerraSAR-X)」の打ち上げに成功しました。

- 【打上げ日時】** 日本時間 6 月 15 日 (金) 11 時 14 分  
(バイコヌール時間 6 月 15 日 (金) 8 時 14 分)
- 【打上げ発射場】** バイコヌール宇宙基地 (カザフスタン共和国)



(C) Infoterra GmbH

バイコヌール宇宙基地より、「TerraSAR-X」/ドニエプル 1 (Dnepr 1) ロケットが打ち上げられました。ドニエプル 1 は正常に飛行し、打ち上げ約 1 時間 20 分後には分離された「TerraSAR-X」とヴァイルハイム地上局 (ドイツ) とのファーストコンタクトに成功しました。今後、各種運用試験が開始されます。

## ■商用衛星「TerraSAR-X」について

TerraSAR-X は、ドイツ政府 (DLR:ドイツ宇宙航空センター) と欧州最大の航空宇宙企業 EADS 社が官民連携事業により開発・運用する商用衛星です (商業利用事業:インフォテラ (Infoterra) 社が担当)。500km 以上離れた宇宙空間から、地球 1 周を 94.85 分で周回しながら地球上を撮影します。

地上から反射する太陽光を受信する光学衛星に対し、SAR (合成開口レーダ: Synthetic Aperture Radar) 衛星は、人工衛星からマイクロ波を照射し、地表面あるいは地上の対象物から反射・散乱されて戻ってくるエコーを受信する能動型センサを搭載しています。X バンドという短い波長のマイクロ波 (波長 3.1cm) を用いているため、地表面の細かい形状の把握に威力を発揮します。

TerraSAR-X の主な特徴を以下にご紹介します。

【高分解能】 利用目的に合わせ、3 つの撮影モード (SpotLight、StripMap、ScanSAR) を備え最大 1 メートルの高分解能を実現。

【高稼働率】 昼夜、雲天を問わず、ほぼ全天候での撮影が可能。

## ■背景

パスコは 50 年以上にわたり航空機を活用した測量、地表データの取得を実施し、昨今ではそのデータを集積、解析する業務にまで裾野を広げ、官公庁のみならず民間企業に対しても空間情報を活用したソリューションを提供しております。

一般的に航空機を活用した従来のデータ取得には大きな制約がありました。航空機に搭載される光学系カメラは、気象条件により撮影の可否が左右され、その結果、日本国内での年間撮影可能日数は 40 日程度、かつ日没までに限定されています。また、定期的に定点を観測しその差分抽出により国土の変動を知るという業務は、国土の変動、道路などの構造物の変化を把握し防災や民間分野での活用が期待される業務でありながら、これもまた同様に大きな制約を受けていました。

情報化が急速に進展する中、高精度かつ高鮮度な空間情報のニーズが高まる中、このような環境、技術上の制約により、国民の安全・安心が阻害されていたといえます。

これからの 21 世紀に求められる空間データ整備に向け、当社は、衛星、航空機、地上、水中のデータを取得することによる日本国土の地理空間情報を構築し、従来の航空機を中心とした測量事業の枠を超越した空間情報サービス事業を大きく進展させることが狙いです。

## ■今後の予定

この度、打ち上げに成功した「TerraSAR-X」は、衛星軌道の補正、姿勢制御、撮影調整などが行われます。なお、撮影データの市場への販売開始時期につきましては、改めて発表いたします。

## ■お問合せ先

### 【お客様からのお問合せ】

株式会社パスコ カスタマーセンター (TEL:0120-494-800)

### 【報道関係からのお問合せ】

株式会社パスコ 戦略企画部広報宣伝グループ (TEL:03-3715-1048)